

『ひろがる言葉 小学国語 五上』年間指導計画・評価計画(案)

単元・教材のねらいと、「学習指導要領」に示された「指導事項」「言語活動例」から、あてはまるものを表示。重点指導事項には、◎を付した。

△知識・技能 思考・判断・表現（◇話すこと・聞くこと ■書くこと □読むこと） ☆他教科との関連

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
4	-	五年生で学ぶこと				
4	4 (話す聞く2)	言葉で伝え合おう				
4	2 (話す聞く2)	わたしは木	◇友達の言葉や動作を受け止めてつなげる。 △言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア ◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。 ⇒思判表A(1)ア ◇資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。 ⇒思判表A(1)ウ ◇話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。 ⇒◎思判表A(1)エ ◇意見や提案など自分の考えを話したり、それらを聞いたりする活動。 ⇒思判表A(2)ア	1 <		

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
4～5	8 (書く2)	一 くふうされた表現をもとに、登場人物のしんじょうをそうぞうして読もう	□登場人物の心情の移り変わりを考えながら読む。			
		いつか、大切なところ	△比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。 ⇒◎知技(1)ク △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。 また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒知技(1)オ △文章を音読したり朗読したりすること。 ⇒知技(1)ケ ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ □登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。 ⇒◎思判表C(1)イ □人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。 ⇒◎思判表C(1)エ □文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 ⇒思判表C(1)オ □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。 ⇒思判表C(1)カ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア □物語を読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。 ⇒思判表C(2)イ	1 2 3～5 6 7・8	○単元とびらを読んで、学習の見通しをもつ。 確かめよう 1. 登場人物や中心人物を確認する。 (1) 登場人物や中心人物を文章の中から探し、確認する。 (2) 中心人物である「亮太」は、始めと終わりの場面で何がどのように変わったかを確認する。 考えよう 2. ゆれ動く亮太の心情を考えて工夫してノートにまとめる。 (1) 亮太のゆれ動く心情がわかる表現にサイドラインを引き、場面ごとに抜き出し、表やふきだし等を使ってその時の亮太の心情を考えてノートにまとめる。 (2) 亮太の心情がいちばん大きく変わった場面はどこか考え、話し合う。 深めよう 3. 亮太が変わることができた理由を紹介し合う。 広げよう 4. 題名「いつか、大切なところ」について、亮太にとっての意味を心の動きを手がかりに考え、ノートに書く。 ○学習を振り返る。	◎【知技】比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。 (〔知識及び技能〕(1)ク) ◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cイ) ◎【思判表】「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ) 【態度】進んで物語の全体像を具体的に想像し、学習の見通しをもって登場人物の心情の移り変わりを考えながら読もうとしている。
5	4 (書く1)	新聞を読もう	□新聞の仕組みを知り、それをもとに同じできごとを扱った新聞記事を読み比べたり、内容や見出し、写真などについて気づいたことを発表し合ったりする。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。 また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒知技(1)オ △情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。 ⇒◎知技(2)イ ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ □事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。 ⇒◎思判表C(1)ア □目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。 ⇒思判表C(1)ウ □文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 ⇒思判表C(1)オ □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。 ⇒思判表C(1)カ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア □説明や解説などの文章を比較するなどして読み、分かったことや考えたことを、話し合ったり文章にまとめたりする活動。 ⇒思判表C(2)ア □学校図書館などを利用し、複数の本や新聞などを活用して、調べたり考えたりしたことを報告する活動。 ⇒思判表C(2)ウ	1 2 3・4	○新聞について話し合い、その仕組みや内容に興味・関心をもつとともに、学習の見通しをもつ。 1. 新聞の仕組みを整理する。 (1) 新聞の特長、新聞記事の構成、見出しやリードなどの用語を知る。 (2) 図や写真などの載せ方(紙面の配置)などについて確認する。 2. 新聞の内容や構成を比べて特徴について考える。 (1) 新聞に載っている内容や興味のあるところについて発表し合う。 (2) 図や写真などの載せ方(紙面の配置)などについて、実際の新聞を見て確認する。新聞の構成を比べる。 3. 同じできごとを扱った新聞記事を読み比べ、内容や見出し、写真などについて気づいたことを話し合う。 4. 新聞についてわかったことをまとめる。 ○学習を振り返る。	◎【知技】情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。(〔知識及び技能〕(2)イ) ◎【思判表】「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cア) 【態度】進んで新聞の仕組みを知り、今までの学習を生かして新聞記事を読み比べたり、内容や見出し、写真などについて考えたことを話し合おうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
5	3 (書く 3)	「情報ノート」を作ろう	■興味をもったり、疑問に思ったりしたことについて、情報を集めて「情報ノート」を作る。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒知技(1)オ △原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。⇒◎知技(2)ア ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒◎思判表B(1)ア ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。⇒B思判表(1)ウ ■引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)エ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。⇒思判表B(2)ア ☆総合的な学習の時間など：自分の課題を見つける際に有効である。	1 2・3	○情報ノートを作る目的と意味を理解し、学習の見通しをもつ。 決めよう・集めよう(重点) 1. 情報を集める。 ・「興味のあること」「疑問に思ったこと」を出し合い、どんな情報を集めたらいかが考える。 ・さまざまな情報を集めた中から、情報ノートに残したい情報を選ぶ。 書こう 2. 使う情報を選び、「情報ノート」を作る。 ○学習を振り返る。	◎【知技】原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。⇒◎知技(2)ア ◎【思判表】目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒◎思判表B(1)ア 【態度】積極的に文章の種類とその特徴について理解し、学習課題に沿って感じたり考えたりしたことについて情報を集めて「情報ノート」を作ろうとしている。
5	1	漢字の広場 ① 漢字学習ノート	△新しく学ぶ漢字や既習の漢字を取り立て、音訓・意味・使い方などを調べて漢字学習ノートを作る。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。⇒◎知技(1)ウ △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ △語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気づき、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。⇒知技(3)ウ	1	○学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 1. 「漢字学習ノート」にまとめる手順を理解する。 2. p.40を参考にして、既習漢字の中の一字について、読み方・意味・使い方などを調べ、短文を考えて、「漢字学習ノート」に書き、まとめる。 3. 「漢字学習ノート」に書いた使い方と短文をそれぞれ発表し合う。 4. 「豆知識」コーナーの具体例を知り、その中から一つ選び、作ってみる。 5. どんな「豆知識」を書いたかを発表し合う。	◎【知技】文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書いている。(【知識及び技能】(1)ウ) ◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(【知識及び技能】(1)エ) 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習の見通しをもって「漢字学習ノート」を作ろうとしている。
	1 (書く 1)	漢字の広場 ① 四年生で学んだ漢字 ①	△絵を見て想像したことをもとに、4年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。⇒知技(1)ウ △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ ■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。⇒◎思判表B(1)イ ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒思判表B(2)ア	2	6. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 7. 4年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。 8. 作った文を互いに発表し合う。 ○学習したことを振り返る。	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(【知識及び技能】(1)エ) ◎【思判表】「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。(【思考力、判断力、表現力等】Bイ) 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵を説明する文を書こうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（1）・言語活動例（2）〉	時	学習活動	評価規準
					○学習したことを振り返る。	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
7	3 (書く 1)	漢文に親しむ	△現代の言葉とは異なる漢文のリズムや響きを読み味わう。 △文章を音読したり朗読したりすること。 ⇒◎知技(1)ケ △親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。 ⇒◎知技(3)ア △古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ること。 ⇒知技(3)イ ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア ☆図書館指導：漢文作品を読み広げる。 ☆道徳：漢文のリズムや響きを味わい、外国の文化への関心を高める。	1	1. 『春暁』の情景を思いうかべ、リズムを感じながら音読する。	◎【知技】文章を音読している。(〔知識及び技能〕(1)ケ) ◎【知技】親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。(〔知識及び技能〕(3)ア) 【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ) 【態度】積極的に現代の言葉とは異なる漢文のリズムや響きを理解し、今までの学習を生かして漢文を読み味わいながら音読しようとしている。
				2	2. 『静夜思』の情景を思いうかべ、リズムを感じながら音読する。	
				3	3. 『論語』と『大学』にこめられた昔の人のものの見方や感じ方を考え、音読する。	
					4. 感想をまとめる。	
7	2	敬語	△敬語のはたらきと種類を理解して、正しく使う。 △日常よく使われる敬語を理解し使い慣れること。 ⇒◎知技(1)キ	1	○冒頭の電話のやり取りを通して、相手による言葉遣いの違いに気付く。	◎【知技】日常よく使われる敬語を理解し、使い慣れている。(〔知識及び技能〕(1)キ) 【態度】積極的に日常よく使われる敬語を理解し、今までの学習を生かして敬語を使う場面や使い方に関心を持ち正しく使おうとしている。
				2	1. 教科書を読んで敬語とその働きについて理解する。 2. 教科書を読み、敬語がどのような場面で使われるか理解する。 3. 教科書を読み、敬語の種類別に、その働きと言葉の例を理解する。 4. 敬語の種類を考えながら、適切に敬語を使用する。 ○学習したことを振り返る。	
7	1	漢字の広場 ② 複合語	△複合語の構成や変化、由来などについて理解を深める。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 ⇒知技(1)ウ △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)エ △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒◎知技(1)オ	1	○学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 1. 「食べる」と「始める」という言葉が組み合わさってできる言葉を考え、二つ以上の言葉が組み合わさってできた複合語について、そのでき方と読み方を理解する。 2. 動きなどを表す言葉が組み合わさってできた複合語を元の言葉に分け、構成について話し合う。 3. 複合語の言葉集めをし、短文を作る。 4. いろいろな組み合わせ方を知り、語形や音が変化する場合があることを確かめる。 5. 複合語のいろいろな組み合わせ方を知る。 6. 二つの言葉が組み合わせるとき、あとの言葉の頭音が濁音になることを確かめる。	◎【知技】思考に関わる語句の量を増し、話の中で使っているとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(〔知識及び技能〕(1)オ) 【態度】積極的に複合語の組み合わせ方について理解し、学習の見通しをもって複合語について、言葉集めをしようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
7	1 (書く 1)	漢字の広場 ② 四年生で学んだ漢字 ②	△絵を見て想像したことをもとに、4年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 →知技(1)ウ △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 →◎知技(1)エ ■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。 →◎思判表B(1)イ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。 →思判表B(2)ア	2	7. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 8. 4年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。 9. 作った文を互いに発表し合う。 ○学習したことを振り返る。	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(【知識及び技能】(1)エ) ◎【思判表】「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。(【思考力、判断力、表現力等】Bイ) 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵を説明する文を書こうとしている。
9	2 (話す聞く 2)	知りたいことを決めて、話を聞こう	◇聞きたいことを明確にして、話を聞く。 △言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。 →知識・技能(1)ア △情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。 →◎知技(2)イ ◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。 →思判表A(1)ア ◇話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。 →◎思判表A(1)エ ◇インタビューなどをして必要な情報を集めたり、それらを発表したりする活動。 →思判表A(2)イ	1	○学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 話そう・聞こう(重点) 1. テーマを決めて、話を聞く。 (1) 二人組みになり、話し手と聞き手を決める。 (2) 聞き手は話し手の話に合わせて、質問をする。 2	◎【知技】情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。(【知識及び技能】(2)イ) ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。(【思考力、判断力、表現力等】Aエ) 【態度】粘り強く聞きたいことを明確にして、学習の見通しをもって、話を聞こうとしている(④)。
9	2	詩を味わおう 素朴な琴 鳴く虫 山のあなた	□さまざまな昔の作品を読みながら、詩の世界を楽しむ。 △比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。 →◎知技(1)ク △文章を音読したり朗読したりすること。 →知技(1)ケ △語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。 →◎知技(3)ウ □登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。 →思判表C(1)イ □人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。 →◎思判表C(1)エ □文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 →思判表C(1)オ □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。 →思判表C(1)カ □詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。 →思判表C(2)イ	1・2	1. 『素朴な琴』 (1) 琴が閑かに鳴り始める情景を「明るさ」「秋の美しさ」「静かさ」などから見えてきたり聞こえてきたりする様子から想像する。 (2) このことからどのような音が響いてくるか話し合う。 2. 『鳴く虫』 (1) 虫の音を作者が何にたとえているか話し合う。 (2) どんな虫の音がどんな宝石によって生まれるのが想像する。 (3) 虫の音色と「方々の草かげがほんのりと明るい」夜の情景を想像して伝え合い、様子が伝わるように音読する。 3. 『山のあなた』 (1) 歴史的仮名遣いに気をつけながら、七五調のリズムを味わいながら音読する。 (2) 「空遠く」「なほ遠く」のちがいを考え、「幸」の意味について話し合う。 (3) 緩急をくふうしてリズムよく音読し合う。	◎【知技】比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。(【知識及び技能】(1)ク) ◎【知技】語句の由来などに関心をもっているとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く、共通語と方言との違いを理解している。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。(【知識及び技能】(3)ウ) ◎【思判表】「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(【思考力、判断力、表現力等】Cエ) 【態度】進んで昔の作品を読み、学習の見通しをもって詩の世界を楽しもうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
9～10	8 (書く2)	四 物語の全体像をとらえ、やま場の場面を見つけて読もう	□残雪に対する大造じいさんの心情の変化を読み、「やま場」の場面を見つけたら、大造じいさんの行動に対しての考えを書いたりする。			
		大造じいさんとがん	△話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。 ⇒知技(1)イ △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。 また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒◎知技(1)オ □目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア □目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ ■登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。 ⇒思判表C(1)イ ■人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。 ⇒◎思判表C(1)エ ■文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 ⇒思判表C(1)オ ■文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。 ⇒思判表C(1)カ □事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア ■物語を読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。 ⇒思判表C(2)イ ☆道徳： 物語の読みをとおして、互いに信頼し、謙虚な心で相手と接することについて考える。	1 2～4 5 6 7・8	○単元とびらを読んで、学習の見通しをもつ。 確かめよう 1. 大造じいさんの残雪に対する心情の変化を考える。 (1)大造じいさんは、がんをとらえるために、どのような作戦を立てたか読み取り、その時の心情とともに、表に整理する。 (2)大造じいさんが残雪に対してもっていた思いは、どのようなもので、どの場面でもどのように変わっていったのか理由とともに話し合う。 考えよう 2. 情景描写を見つけ、効果について話し合う。 深めよう 3. この物語の「山場」は、どこか。そこだと思った理由をノートにまとめ、発表し合う。 広げよう 4. いまいましく思っていた残雪を、「また、堂々と戦おうじゃないか。」と言って放した大造じいさんについての考えを、大造じいさんの心情にふれながら書き、友達と読み合う。 ○学習を振り返る。	◎【知技】思考に関わる語句の量を増し、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。(〔知識及び技能〕(1)オ) ◎【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ) ◎【思判表】「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ) 【態度】進んで残雪に対する大造じいさんの心情の変化を読み、学習の見通しをもって「やま場」の場面を見つけたら、大造じいさんの行動について考えたことを文章にまとめようとしている。
10	1 (書く1)	鳥	△「鳥」を扱った言語表現を集める。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。 また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒◎知技(1)オ △語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く、共通語と方言との違いを理解すること。 また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。 ⇒知技(3)ウ ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒◎思判表B(1)ア ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア	1	1. 教科書の文章から「鳥」を扱った表現や歌を知り、声に出して読む。 2. 「鳥」に関する歌や言葉を辞典などを使って調べて、ノートに書く。	◎【知技】思考に関わる語句の量を増し、文章の中で使っていると同時に、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(〔知識及び技能〕(1)オ) ◎【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bア) 【態度】り強く「鳥」を扱った言語表現を集めようとし、学習の見通しをもって感じたり考えたりしたことについて文章に書こうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
10	4 (書く 4)	俳句を作ろう	■季語や自分の気持ちや様子を表す言葉を選び、俳句を作る。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒◎知技(1)オ △比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。⇒知技(1)ク ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒◎思判表B(1)ア ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)カ ■短歌や俳句をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。⇒思判表B(2)イ	1 2 3 4	○教科書に載っている俳句・短歌について感じたことや表現の工夫について考え、学習の見通しをもつ。 決めよう・集めよう(重点) 1. 最近の心が動いたできごとを思い出し、連想する言葉を集める。 組み立てよう 書こう・読み返そう 2. 音に合う言葉を選び、俳句を作る。 伝え合おう 3. 作品を読み合い、感想を伝え合う。 ○学習を振り返る。	◎【知技】思考に関わる語句の量を増し、文章の中で使っているとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(〔知識及び技能〕(1)オ) ◎【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bア) 【態度】進んで語感や言葉の使い方に対する感覚を意識し、学習の見通しをもって俳句をつくろうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
10	6 (話す聞く6)	五 考えを広げるために、 立場を決めて話し合おう	◇立場を決めて話し合い、さまざまな意見を聞いて自分の考えを広げる。			
		A I とのくらし	△思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒知技(1)オ △日常よく使われる敬語を理解し使い慣れること。⇒知技(1)キ △原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。⇒知技(2)ア △情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。⇒知技(2)イ ◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。⇒思判表A(1)ア ◇話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えること。⇒思判表A(1)イ ◇資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。⇒思判表A(1)ウ ◇話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。⇒思判表A(1)エ ◇互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。⇒知技(1)オ ◇異なる立場を生かした話し合いなど、互いの考えを伝え合う活動。⇒思判表A(2)ウ ☆社会科・総合的な学習の時間・特別活動：根拠や理由をはっきりさせて自分の考えを述べる。	1 2・3 4・5 6	○単元名やリード文を読み、普段、友達の見聞を聞いて話し合いをしているかどうかを振り返り、学習の見直しをもつ。 決めよう・集めよう 1. テーマを決めて、調べる。 (1)「AIとのくらし」というテーマについて様々な立場から情報を調べる。 組み立てよう 2. 話し合いの準備をする。 (2)様々な立場から意見をまとめる。想定される質問については答えを考える。 話そう・聞こう(重点) 3.「ミニディベート」を行う。 (3)3人組になり、「利点の立場」「問題点の立場」「聞き役」の役割で話し合う。順に繰り返し、3人がすべての役割で話し合うことを経験する。 伝える・伝え合う 4. 感想を交流する。 ○学習を振り返る。	◎【知技】原因と結果など情報と情報との関係について理解している。(〔知識及び技能〕(2)ア) ◎【思判表】互「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aオ) 【態度】粘り強く立場を決めて話し合い、学習の見直しをもってさまざまな意見を聞いて自分の考えを広げようとしている。
10	1	漢字の広場 ③ 熟語の構成	△二字熟語の構成や由来について理解を深める。 △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒知技(1)エ △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒知技(1)オ	1	○学習内容を理解し、学習の見直しをもつ。 1.「読」「書」という二つの漢字の意味を手がかりに「読書」という熟語の意味を考える。 2.p.118下段の設問で示す熟語について、読み方を確かめ、組み立てにそって読み下し、意味を推測し、話し合う。 3.辞典が定義している意味を調べ、自分が推測した意味と比べて熟語の意味を確認する。 4.二字熟語の構成のタイプを五つに分けて、理解する。 5.p.119の設問で示す熟語について、構成を考え、意味を推測し、辞典で意味を調べて確認する。	◎【知技】思考に関わる語句の量を増し、話の中で使っているとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(〔知識及び技能〕(1)オ) 【態度】粘り強く二字熟語の構成や由来について理解を深め、学習の見直しをもって熟語の構成をもとに意味を考えたり、辞典を使って調べたりしようとしている。
	1 (書く1)	漢字の広場 ③ 四年生で学んだ漢字 ③	△絵を見て想像したことをもとに、4年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。⇒知技(1)ウ △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒知技(1)エ △語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気づき、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。⇒知技(3)ウ ■文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。⇒思判表B(1)オ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。⇒思判表B(2)ア	2	6.教科書の絵を見て、描かれているものについて説明する。 7.4年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている都道府県名を使った文を書く。 8.書いた文を見直し、適切な表現に替えたり、まちがいを正したりして、発表し合う。 ○学習したことを振り返る。	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)エ) ◎【知技】語句の由来などに関心をもっているとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気づき、共通語と方言との違いを理解している。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。(〔知識及び技能〕(3)ウ) ◎【思判表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bオ) 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵を説明する文を書くようとしている。